



平成30年上半期交通事故

【人身事故発生状況】

【高齢者の事故】

	件数	死者	負傷者
本年	2,042	16	2,587
前年	2,419	18	3,041
増減	-377	-2	-454

	件数	死者	負傷者
本年	583	10	336
前年	673	9	411
増減	-90	1	-75

県内の上半期の交通事故は、前年に比べ発生件数、死傷者数ともに減少しています。発生件数の曜日別では、木曜日が最も多く、次いで水曜日が多くなっています。また、時間帯別では、10時～12時および16時～18時に多発しています。

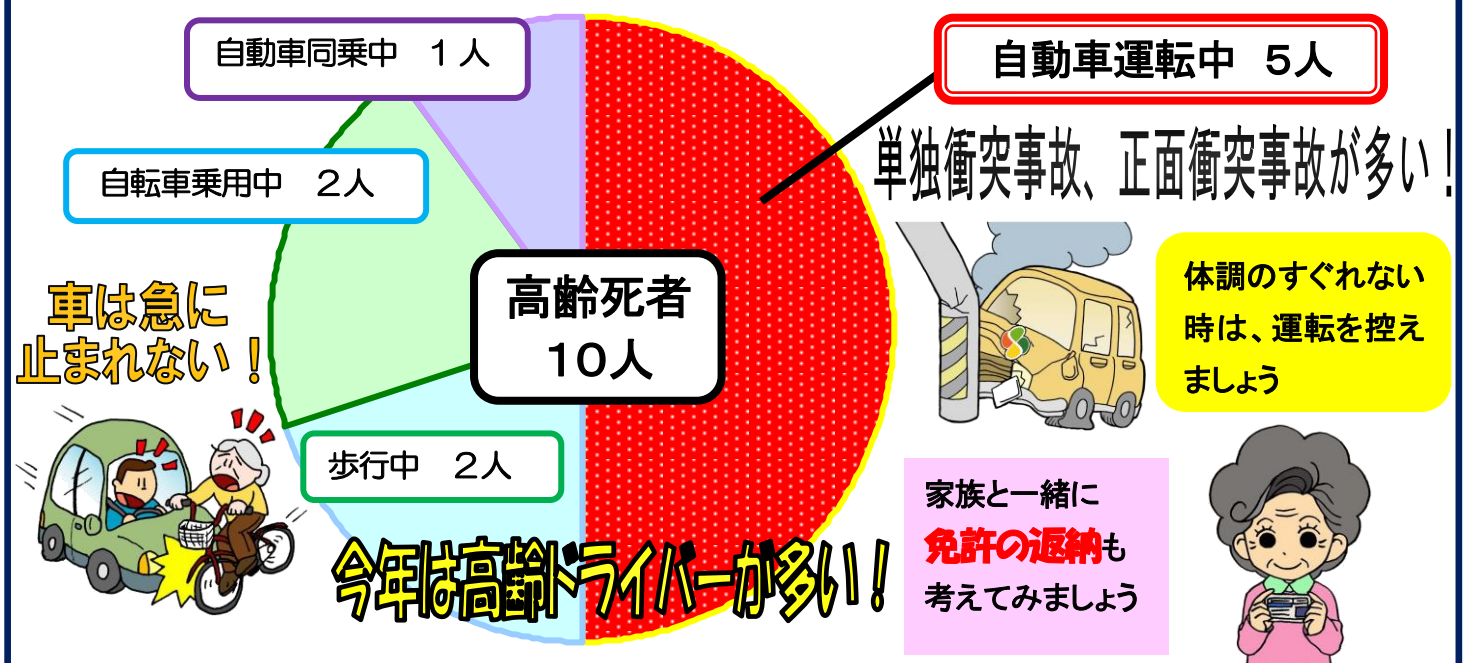
6月中に交通死亡事故の発生はありませんでした。月中の交通死者ゼロは、統計記録が残る1954年（昭和29年）以降65年間ではじめてのことです。

交通事故死者16人中、高齢者は**10人**（半数以上を占める）！

※高齢者…65歳以上をいう

どんな事故が発生してるの？

高齢者交通事故死者状態別





車両運転中にもし災害が発生したら…

7月中、西日本は大雨により甚大な被害を受けました。今後も台風や大雨など災害の発生が予想されることから、車両運転中等の避難行動について再確認しましょう。

① テレビ、ラジオ、インターネット等での最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。



大雨になりそうだから、運転は控えよう。

② 河川の付近を走行しているときは、川の水位や流れに注意しましょう。

河川の急な増水や、濁ったり枝が流れてきたりするときは危険です。

ハザードマップにより危険箇所をあらかじめ把握し、安全な場所へ避難する必要があります。



③ 周辺より低い位置にある道路は避けましょう。

地下道やアンダーパスは低い位置にあり、水がたまりやすいため、短時間でも水位が上昇する恐れがあります。



④ 冠水している道路は避けましょう

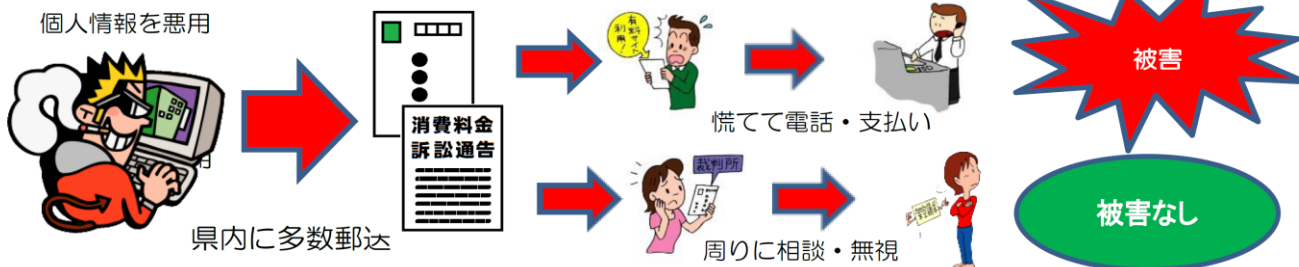
比較的水位が低く(5~10 cm)でも、路面状況がわかりにくいので、絶対に進入せずに、迂回しましょう。排水溝への脱輪や段差へ乗り上げる危険があります。

⑤ 万が一車が水に浸ってしまったときには…!?

すぐに車を止め、慌てずにエンジンを停止させ、避難経路を考えましょう。その際は道路の状況がわからないので一步一步確かめながら、進行方向と逆に避難しましょう。

万が一水没した場合には、まずシートベルトを外し、窓が水面より高ければ開けてルーフに上るようにして脱出します。開かないときは、緊急脱出用ハンマーを利用することにより脱出の可能性が高まりますので、常備しておきましょう。 ※出典 JAFホームページより

架空請求はがきに注意!!



滋賀県警察 ご相談窓口 #9110

●ハガキに記載されている連絡先に電話をすると、犯人につながります。電話しないでください。

施設の窓口で掲示するなど、必要な方々にご覧いただけるようご協力ください。
滋賀県警察本部交通企画課 高齢者交通安全推進室 ふれあいチーム
TEL 077-522-1231 (代表) Eメール x0022@police.pref.shiga.jp